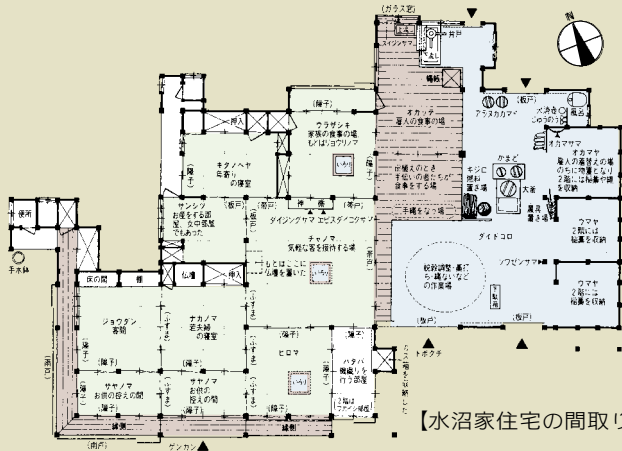


食い違い棟民家

東高橋の水沼宙宏氏宅は、江戸時代中期頃に建てられたと思われ、今なお建築当時の姿を色濃くとどめる民家である。水沼家住宅が注目されるのは、民家としては建築年代が古いということもさることながら、独特な造りをするところにある。正面から見ると曲家と思えるが、真上から見ると屋根が交差する棟が「型」となり、棟が食い違うことから食い違い棟民家と呼ばれる。食い違い棟民家は、芳賀町を中心としたごく一部の地域にしか見られない独特な民家で、国指定重要文化財の岡本家住宅（河内町下岡本）、同入野家住宅（市貝町赤

羽）も同様の造りである。この食い違い棟民家に共通する事柄は、いずれも江戸時代に建てられたものであり、規模が大きく、当時、名主や組頭などの村役を務めていた家ということがある。村役を務めていた家では、度々やつてくる代官や藩の役人などを迎える部屋が必要であり、また、そうした部屋は家人の生活空間と隔てる必要性があった。その結果生み出された民家



【水沼家住宅の間取り】

の一つが建坪の大きい食い違い棟である。江戸時代にあって豊かな農村地帯が生み出したこの地方独特な民家でもある。

第26回

編集後記

□広報担当となり2回目の春を迎えました。この一年で自分は成長したのでしょうか？不安を感じる今日この頃です。

□4月の初め、さくら祭りの取材に出かけました。今年はお天気も良く、桜のタイミングもバツチリ。皆さんの楽しんでる表情をカメラにおさめようと夢中でシャッターを押し続けました。ふと気付くと、ピンゴゲームのステージの上で撮影している自分が昨年はずかしい&遠慮の気持ちで先立つてできなかったのに…。

■度胸がついたのか、周りが見えなくなっているのか。そのはざままで葛藤する私でした。

(丹)



Troglodytes
(全長10.5cm)
(穴に潜る鳥)

日本で最も小さい野鳥。褐色の丸い体で黒い横斑があり、藪の中では見付けにくい。尾羽を立てた姿勢で口を大きく開け、大きな声でツリリ・ツリリーと震えるようにさえずる。

普通は山地の溪流沿いや、やや湿った林で繁殖し、雄は自分の縄張り内に複数の巣を掛け複数の雌にひなをかえさせる。冬季には町内の沢沿いの雑木林に降りてきてさえずっているのが聞こえる。

オオルリの写真撮影に日光連山の沢沿いを歩いているとよく耳にする鳴き声である。

実物をよく観察すると、こんな小さな体で震え震えもがんばってさえずる姿はりりしいと感じる。全国的に地方名で呼ばれることが多く「やぶぐり・みそぬすみびと・みそちんちん」などと多くの人々から親しまれている。

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120 (753) 898
- 芳賀町の携帯サイトはコチラから➔



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.espa.com